

開催地名：千葉県松戸市	
開催日時	令和 5 年 1 月 13 日（金） 14：00 ～ 16：00
開催場所	松戸市民会館（オンラインによる講演）
語り部	大内 幸子（宮城県仙台市）
参加者	防災リーダー、防災ボランティア、町会・自治会、災害協定団体、女性防火クラブ、市民、防災会議委員、職員 約 600 名
開催経緯	本市では、首都直下地震の発生や、巨大地震発生切迫性が懸念されている中、市民一人ひとりの防災意識や知識の向上を図ることを目的として日頃から啓発活動を行い自主防災組織の結成及び活動を進めている。平成 26 年より避難所ごとに避難所運営委員会を設置し、すべての避難所で開設・運営訓練を実施することを目標としているものの偏りがある状況である。また防災リーダーの高齢化、災害に対する危機意識の低下、低年齢層への防災意識の向上が課題となっている。
内容	<p>（１）東日本大震災を忘れない</p> <p>私の住む仙台市福住町は、50 年ほど前に開発された新興住宅地である。毎年夏祭りを実施し、住民の横のつながりが構築されている。2003 年から自主防災組織を立ち上げ、重要支援者の名簿作成や、他市町村との災害時相互協力協定の締結等を進めてきたことから、防災意識の高い町として全国に知られている。2011 年 3 月 11 日の午後発生した未曾有の大震災でも、福住町では、避難行動要支援者を含む住民の安否確認、避難誘導、緊急対策本部の立ち上げ、避難所の開設、炊き出しの準備、公園に手作りトイレと瓦礫置き場の設置を、普段の訓練通りに対応することができた。卒業式を 2 日後に控えた中学生も避難所にかけつけてくれ、水汲みの手伝いや、子供たちの面倒を見てくれた。</p> <p>（２）東日本大震災時の避難所について</p> <p>避難所の高砂小学校では、500 人分の備蓄品が用意されていたが、午後 6 時半の時点で約 2,000 人の避難者が押し寄せた。ライフラインは止まり、電話・メールなどの通信も途絶えた。災害時に水が出る公園を知っていたので水汲みに行き、炊き出しを行った。最も困ったのはトイレである。小学校のプールに水汲みに行き、トイレを流した。公園に手掘りのトイレも作った。震災の関連死にはトイレに関したものが多。外のトイレは寒、中のトイレは機能していないので我慢して水分を摂らない人がいる。そうすると体調を崩す。トイレ対策は事前に最優先事項として考慮していただきたい。</p> <p>避難所に殺到する 8 割はいわゆる災害弱者と言われる人たちであり、具体的には高齢者や障害のある方、女性、子どもである。女性は子育てをしていて地域の人たちのことをよく把握しているし、気配りや配慮ができるので、女性が男性と一緒にリーダーとなって動いたほうが避難所はうまくいく。東日本大震災時には避難所運営委員に女性が含まれていなかったため、女子更衣室や授乳室の確保を始めとする避難所の環境整備の部分で、反省点や気づきが多々あった。私は、東日本大震災を経験することで、専門的な知識がないと災害時に適切な行動ができないことや、過去の災害について伝えることの重要性について認識したので、防災や減災、福祉、救護等について学び始めた。そして仙台市地域防災リーダー</p>

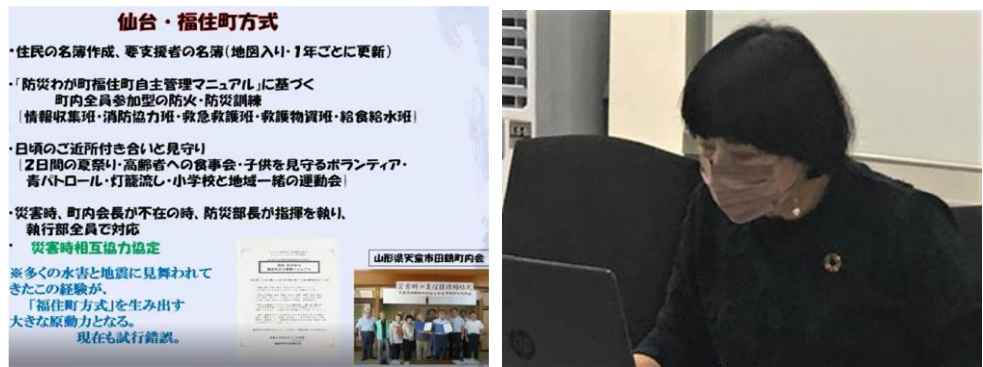
(SBL) の認定を受け、女性のための防災リーダー養成講座を受講するとともに、国連防災世界会議のパブリックセッションで「地域防災の取り組みと活動」について発表の機会も得た。

### (3) 自然災害に備えて

福住町の防火・防災訓練では、発災時の訓練だけでなく、「自分たちの町は自分たちで守る」をモットーに、減災についても毎年学んでいる。15年前から消防署の指導ではなく、福住町独自の企画と運営で、「全員参加型」を目指す防災訓練である。大きな公園に20あまりのブースを設け、さまざまな催しをしている。中には水道、ガスなどライフライン担当者から話を聞くブースもあり、発災からどうやって対処したら良いかを教えてもらう。訓練には中学生にも参加してもらっている。防災教育は子どもの頃からでないとい間に合わないためだ。

震災後、避難所運営マニュアルにも変化し、避難所は体育館から校舎の2～4階に避難するようになり、避難所運営委員に女性の参画も進んでいる。また、避難所で使用する簡易トイレは、東日本大震災時の教訓から洋式化を促進してもらい、現在は7：3で洋式トイレが増えている。

お祭りやイベントを通じ、顔の見える関係が減災に効果的である。また、学校の防災教育と地域防災をタイアップすることで、地域の発展と防災力向上につながっていくと言える。普段から、災害が起きた時に取るべき行動を、家族で話し合っておくことは必要だ。そして、地域の災害の歴史を次世代に根気よく伝承していくことが、地域の災害リスクの理解と共有につながり、安心・安全な町づくりを導く。地道に防災・減災の活動を進めていきたいと思う。



開催地より

これから当市で取り組んでいかなければならない防災活動について、一つのヒントとしていきたい。今後は、市職員参加の防災訓練等において自助共助の重要性について講話を行うとともに、HP等で備蓄の呼びかけを行っていききたいと思う。